

D-2 家族関係の発展に関する研究 —家族構成について—

恵泉女学園短大 ○小牧百合子
東京家政学院大家政 黒田 淑子
福田 恒子

1. 「家族」と呼ばれる集団は、父・母・子関係、祖父母・父母・子関係などの基本的な家族構成によって成立している。構成員間の関係は、時間的に継続する関係であり、血縁的に親密な関係で結ばれている。従来 of 家族構成に関する研究は、家族構成員間の質的研究および量的研究をすすめること自体に主眼がおかれている。本研究では、家族構成員の質的・量的変化に対応する構成員間関係の特殊性、共通性を動的に明らかにする。さらに、家族構成員間関係が統合的に展開するような志向性に基づき、家族関係発展への指標を明らかにする。

2. 行為法—家庭心理劇—による方法で研究をすすめる。1) 次のような演出観点に基づき家庭心理劇を展開する。(1) 場面設定—日常生活場面（食事場面 etc.）。(2) 役

割構成—家族構成の質・量（父・母・子、3人家族 etc.）。
(3)心理劇の展開—場面転換，役割交代 etc.。2)次のような分析観点に基づき心理劇の過程分析をおこなう。(1)役割行為の変化，(2)関係構造の変化，(3)関係の通路の変化，その他。

3. 行為法—家庭心理劇—の展開，過程分析の結果を考察すると，家族関係発展への指標として次の事柄を明らかにすることができる。1)役割行為の可能性を拡大すること。2)家族成員間関係の通路を拡大すること。3)多面的な関係状況における役割体験を重ねること。家族構成員間関係にこれらの指標がとりいれられることにより家族関係は発展する。